

第28回長野市公共施設適正化検討委員会 議事要旨	
開催日時	平成30年3月23日(木) 14:00~16:00
場 所	長野市役所第二庁舎 10階 会議室 202
出席者	[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、 中屋委員、西堀委員 [事務局(公共施設マネジ メント推進課)] 久保田総務部長、望月総務部次長兼公共施設マネジメント推進課長、村上総務 部主幹兼公共施設マネジメント推進課長補佐、小林公共施設マネジメント推進 課係長、渡辺公共施設マネジメント推進課係長
議 事	(1) 公共施設マネジメント推進について (2) 公共施設整備事前協議制度について (3) 長野市PFI等活用ガイドラインの策定について (4) その他

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) 公共施設マネジメント推進について
- (2) 公共施設整備事前協議制度について
- (3) 長野市PFI等活用ガイドラインの策定について
- (4) その他

- 4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

- (1) 公共施設マネジメント推進について
- (2) 公共施設整備事前協議制度について
- (3) 長野市PFI等活用ガイドラインの策定について

〔資料1~2、5について村上主幹 資料3について小林係長、
資料4-1、4-2について渡辺係長より説明〕

委員長 資料にH30年度ワークショップ開催予定の記載があるが、意見交換会として実施する地区は、年度を改まって広報するのか。開催地区にはすでに通知してあるのか。

事務局 開催予定の10地区は支所を通じて住民自治協議会に投げ掛け、開催希望があった地区である。第五、第三地区については、メンバーを集めるのが難しく、また、当面の課題が見当たらないため、ワークショップ形式はとらず、将来的な課題として、公共施設マネジメントについて説明させていただき、意見交換をしていきたい。

委員長 ワークショップはグループに分かれて、それぞれ具体的なテーマについて話し合っ

いるが、来年度ワークショップ形式で行う8地区についてテーマは決まっているのか。

事務局 長野市のワークショップは、地区にある公共施設の将来像について市民と行政が一緒に考えるものであり施設を特定しているものではない。地区により状況も異なる。例えば、篠ノ井地区では駅周辺を中心に行ったが、その結果、南部図書館についての意見が具体化した。七二会、朝陽地区は、結果的に支所を中心とした話し合いになった。

来年度、ワークショップを行う地区については、地区の皆様とご相談しながら決める予定だが、信更地区については、閉校となった更府小学校の後利用について住民の関心が高い。また、若槻地区は、コミュニティーセンターの老朽化が焦点となると思われる。テーマの絞込みが難しい地区については、具体的なテーマがないと話し合いも進まないため、議論が進むようなテーマを設定したい。

委員長 戸隠は学校を後利用している博物館もあるが、耐震性等の問題はどうか。

事務局 リニューアルした際に対応済みである。

委員 第五と第三はなぜワークショップ形式でできないのか。中心市街地で日中は人口が外の地区から集まる地域であるが、そういった特徴があると捉えて良いのか。

事務局 そういった地域性もあると思う。この2地区は美術館やトイゴといった新しい施設もあり、当面の課題も見当たらない。また、人集めも負担が大きい。特に第三地区においては、権堂の再生計画の中でワークショップ形式での話し合いをしたが、成果が出なかった経験もあることから、ワークショップ形式では行わないという判断となった。

委員 中心市街地は全市的な施設が集中しているが、地域と密着している施設についてはどうなのか。

事務局 公民館の分館が老朽化しているが、地域住民が主体的に利用している施設は少ない。

委員 地域的な話ではなく、中心市街地についてランダムに意見をとれるような方法を考えるのはどうか。施設を個別で考えるのではなく、中心市街地全体としての充足、統合等の意見も出てくるのでは。

事務局 中心市街地でのワークショップはこれまで行っていない。第一から第五まで地区を越えた広いエリアでの意見交換の必要性が出てきたら、次のステップとして考えたい。

委員 中心市街地は地域外の人が利用する施設が多いので、地区住民に意見を伺っても上手くいかないと思う。長野市の中心部で重要な地区であり、自分たちの身の回りだけでなく、全市的に考えなければいけないという住民の意識付けの取り組みも必要では。

事務局 地区単位ではないが、中心市街地については中心市街地活性化基本計画に基づきまちづくりを進めている。

事務局 第三、第四は、地区より町の繋がりの方が強く、支所等もないことから他の地区とは感覚も違うようである。中心市街地については、30年度、第三、第五で意見交換を行う中で次のステップが見えてくるものと考えている。

委員 始めから中心市街地は別のもものと考えて、住民の皆さんの意見を出してもらおうのも1

つの方法ではないか。中心市街地は共通してやったほうが良いのでは。

事務局 各地区とのバランスも考えなければいけない。貴重なご意見とさせていただきたい。

委員 PPP/PFIについて、民間と行政が連携する良い手法と思うが、民間の資金等を活用するにあたり、安定面の心配があるのでは。大企業を考えているのか、地元の企業の採用を考えているのか方針はあるか。

事務局 基本的には地元企業に参加してもらいたいと考えている。事業の規模によって可能、不可能があるが、地元事業に PPP/PFI を知ってもらうことも必要であるし、大企業が参画した場合も地元企業を使ってもらうことをお願いしていくことはできる。

委員 今日の PPP/PFI の資料だが、事業の検討、採択など行政視点のものに感じる。行政と民間とでは PPP/PFI の価値観がかなり異なる。今後、時代の流れとして PPP/PFI が採用されていく状況で、行政と民間のかい離感を早い時期に埋める必要がある。そのため業界団体等との意見交換し、民間との溝を埋める努力をするべきではないか。行政と民間の温度差もある。企業にとってのメリットも示すべき。

公共事業はこれから大幅に減少していく。2020 年を契機に民間の建設投資も減っていく。民間も質を重視してきている。長野市の事業に民間事業者が参加する意欲が高まるかが問われる。

各種団体と意見交換し、現在の民間事業者がおかれている実情と何を求めているかを把握した上で基準の適否を考えて欲しい。

事務局 PPP/PFI 導入にあたり、ガイドラインの策定は不可欠。早い段階から民間と対話し、民間が乗れるような事業スキームを如何につくっていくか取り組む必要があると考えている。

いかに早い段階で民間と対話できるか、サウンディング市場調査や、国からの支援等、取り入れられるものは取り入れて、少しずつ経験を積んでいきたいと考えている。

委員長 講演会を聞いているだけでは人材は育たない。何か一つやりながら、国の支援を受けながら、人材を育てながら、長野モデルのようなものが示せるようにならなければ、民間も乗ってこないのでは。

事務局 PPP/PFI は性能発注の手法であり、民間と行政が共通の理解に立つことが必要。長野市の企業からの PFI 発案を受け止めて考えていく場ができれば。そのために情報共有する場を作りたいと考えている。

委員 新しいサンマリーンの整備は PPP/PFI か。

事務局 建設等は従来手法で、運営は指定管理制度を導入している。

委員 指定管理者の公募はあったのか。

事務局 担当課へ4グループから応募があり、選定委員会により1グループが選ばれた。

委員長 指定管理者は地元でないといけないような縛りはあったのか。

事務局 地元の活用などの提案は求めているが、応募資格について縛りはない。

委員　もんぜんぱら座の老朽化について、これから議論が始まる。PPP/PFIなど民間の発想によって新しいまちづくりをする場所ではないか。岡谷市の民間委託のように方針がはっきり決まっていて、あとは民間に自由にやってもらうような思い切った事例もある。行政は早い時期に民間の考えを掌握し、お互いのためになるような手法を考えなくてはいけない。

委員　民間は採算性が重要。短期間で利益を上げることが重視する。そういった意味ではPPP/PFI導入は難しい。そこをどう解決していくか。行政がいかに好条件を示せるか、どれだけ民間の自由な発想に委ねられるかが課題である。

委員長　以前（湯一ぱれあの時）とは状況がかわっている。人口が増加している地域（他市）で出来たことが、長野市で出来るとは限らない。サウンディングも、やっただけになってしまったらとの心配もあるが、出来ることはやった方が良い。全てが一様ではないのだから。

【閉 会】